

日医工医療行政情報

<https://stu-ge.nichiiko.co.jp/>

「高齢者の医薬品適正使用」 令和4年度 事業報告

2022年11月30日厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より

作成：日医工株式会社（公社）日本医薬経営コンサルタント協会認定登録番号 第6178号 栗原盛一

参考資料：2022年11月30日厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より

No.20220803-2003 「調剤薬局で始めるポリファーマシー対策」

No.20220701-1131-1 「ここから始める！病院が進めるポリファーマシー対策」

モデル事業 資料転載許可日

広島市薬剤師会 2023年1月10日 転載・掲載許可 承認

神奈川県保険医協会 2023年1月10日 転載・掲載許可 承認

宝塚市薬剤師会 2023年1月12日 転載・掲載許可 承認

資料No.20230112-2039

本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したのですが、その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます

- 高齢者は、複数の疾患を治療している確立も高く、医薬品を多剤服用している場合もある。
- 高齢者の多剤服用は、ポリファーマシーの状態になる傾向もあります。
ポリファーマシーとは、**年齢に関係なく**「多剤服用の中でも害をなすもの」とされています。

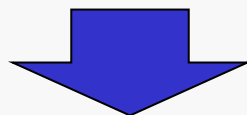
「多剤服用の中でも害をなすもの」とは……

- ・有害事象の増加…薬物相互作用、処方・調剤の誤り、
飲み忘れ・飲み間違いの発生確率増加

- 厚生労働省は特に「**高齢者のポリファーマシー対策**」を推進しており、様々な指針や取り組み事例を公表しています。

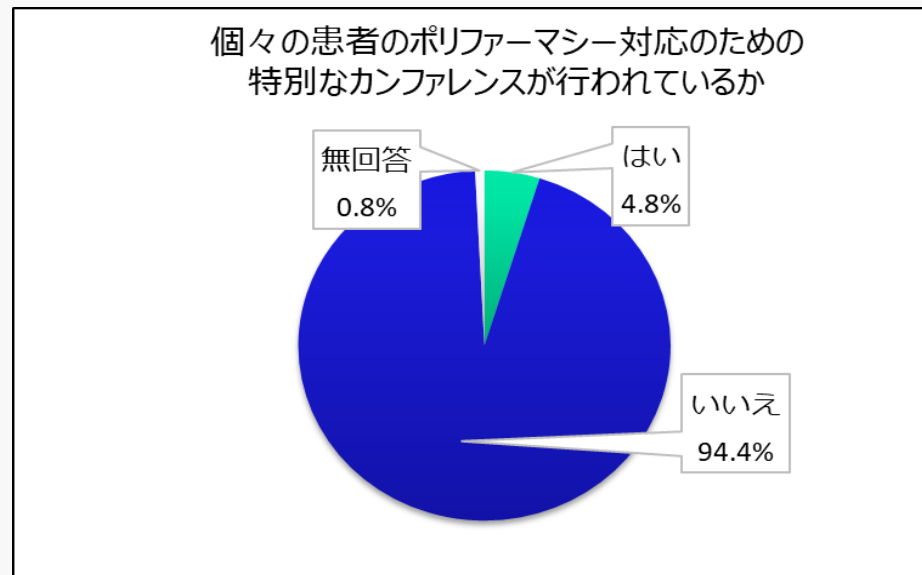
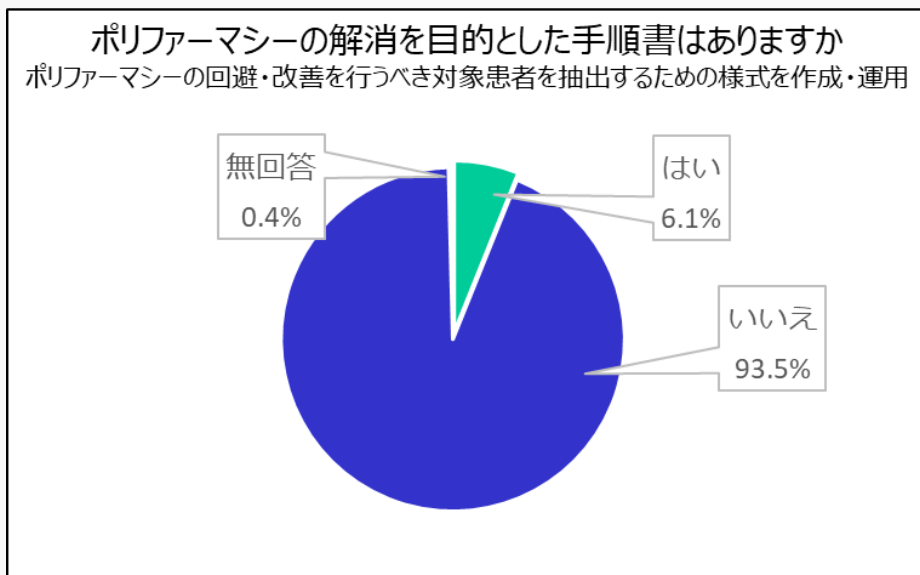
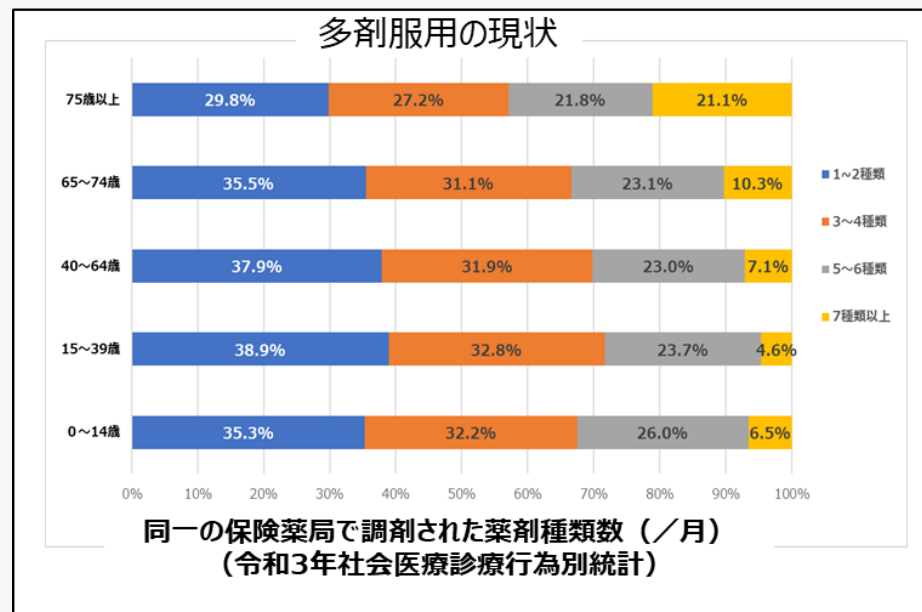
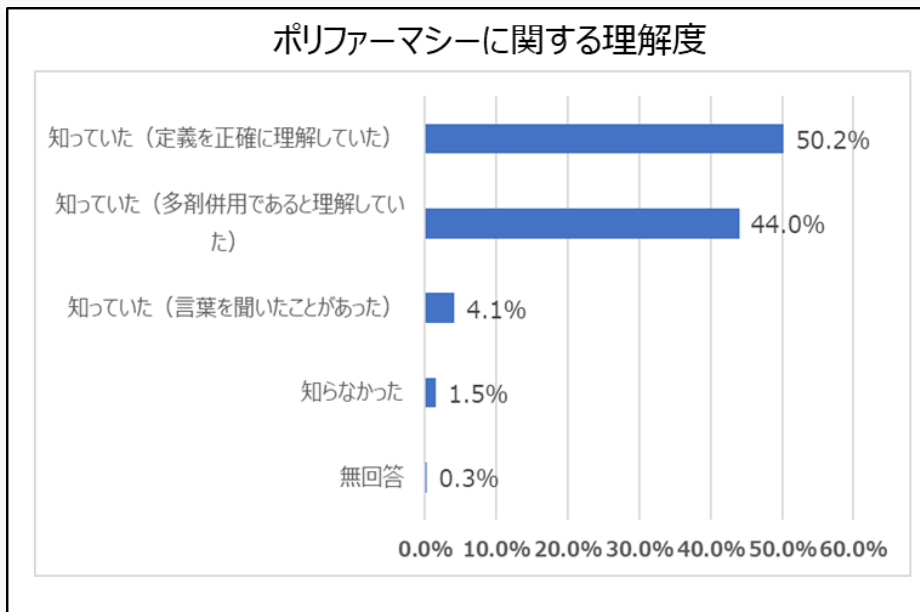
様々な指針や取り組み事例の公表では……

- ・薬剤費の増大抑制事例（自己負担・国民医療費）
- ・服用時の手間、介助者の手間を考慮した、QOL向上の取り組み事例



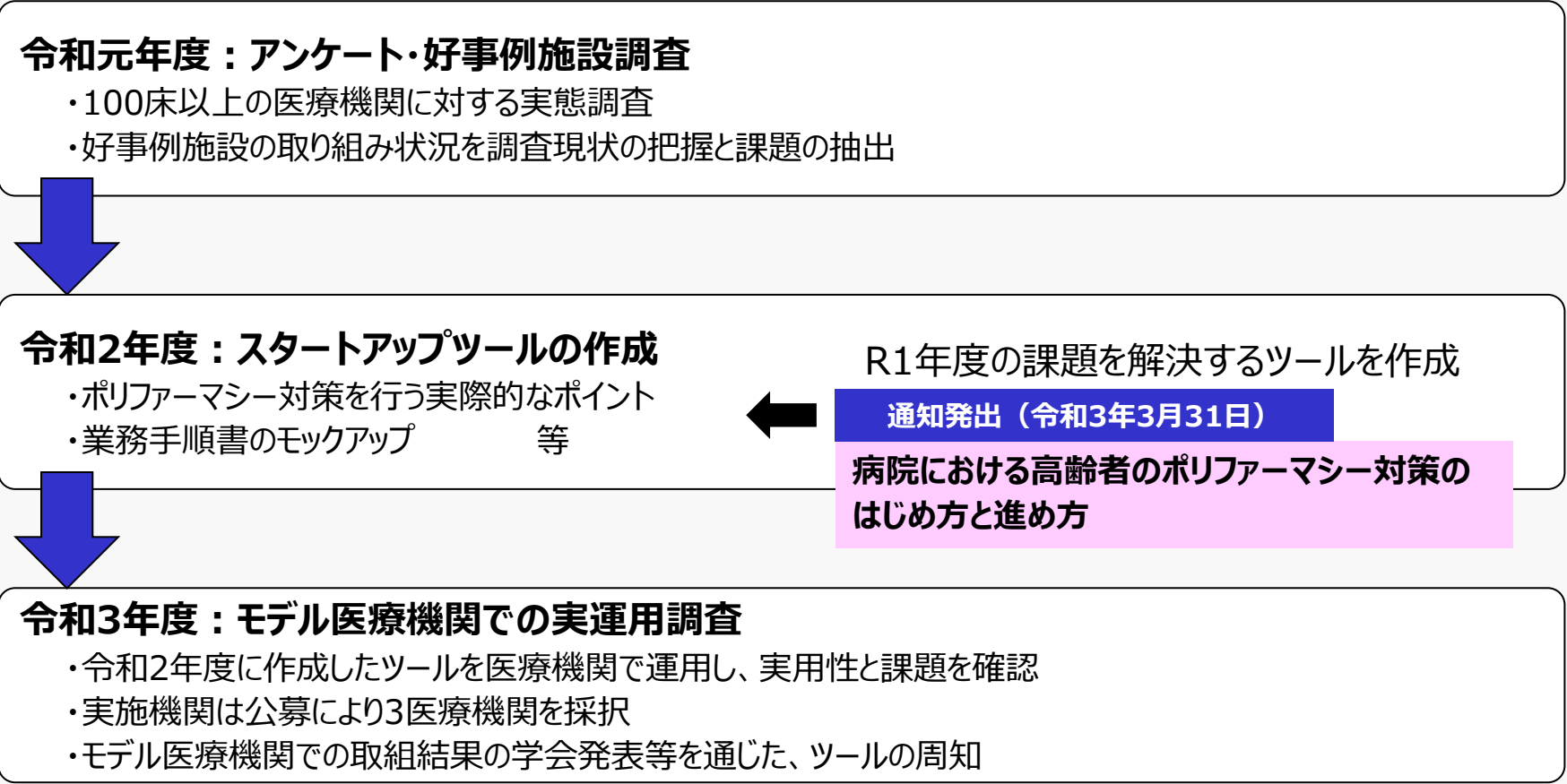
厚生労働省では

「高齢者医薬品適正使用検討会」を開催し、多剤併用時の適正使用情報（重篤副作用の発見・対処、薬剤選択情報（推奨薬と安全性））を中心に、有害事象回避のための処方の見直し等の具体的な方法について定めた指針の策定、アップデートを行うとともに適正使用情報を効果的に周知する方法等について検討を行っています。



本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

医療機関で活用できる、より実践的なモデルや手順書といったツールが必要ではないか



本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

有効性

- ポリファーマシー業務を開始するにあたり、作業工程の手順がわかりやすく記載されている。
- それぞれの施設状況に合わせた「始め方」が丁寧に記載されており、その中でできることから始めることができる。
- 様式事例集が充実しているため資料作成の参考になる。
- 様式事例集に具体例が示されており、運営要領や薬剤管理サマリーのひな型作成の際に非常に参考になった。
- 施設ごとの異なるニーズに対応できる様式である（細かい項目設定）
- 当初、当施設は「進め方」の部分を中心に実運用調査予定であったが、「始め方」の部分でも参考になる部分が多く、全体を通して自施設での取り組みを見直すために有用である。
- 対策を始める前の現状把握と対策後の評価方法が具体的に記載されており、周囲への啓発に有用である。
- ポリファーマシー業務を運用することで、実際に処方の見直しにつなげることができた。結果的に、ポリファーマシーに関連する診療報酬1の算定取得にもつながった。

課題

- 病院の医師と地域の医師との連携体制の構築が難しい。
- 患者が様々な地域から来院されている場合、かかりつけ医やかかりつけ薬局も多様であり、地域連携の実現が難しい。
- 地域の医師会に対するアプローチのみでは開業医各々のポリファーマシー対策に対する意識の差が把握しづらい。
- 多職種でのポリファーマシー対策チーム設置が難しい場合の段階的な取り組み方があるとよい。
- ポリファーマシーの啓発活動を行う際に活用できる、医療スタッフ向けの資材の紹介があるとよい。

令和4年度の事業の取組へ

本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

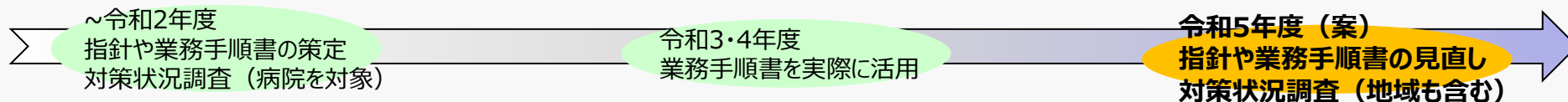
本資料に掲載

モデル地区において**高齢者**のポリファーマシー対策の取組と課題抽出

【目的・内容】 これまで検討会で作成した指針及び業務手順書等を地域で活用するに際し、不足する内容や課題等を明らかにする。また、課題を解決するための有効な取組み等があれば、今後の活用に向けてそれらの情報を整理する。

【実施対象】 地域の医師会、薬剤師会等が連携してポリファーマシー対策に取り組む地域
 ※) 地域の病院、診療所、薬局等が連携して取り組むものであること

令和5年度の事業の取組に向けて



- 今後指針・業務手順書等の見直しの検討において、どのような情報があると良いか。
- 見直しを検討する対象として、特に重視したい点はあるか（例：多職種連携の在り方、様式の追加や見直し、患者や医療従事者向けのポスター等）。
- その他、今後検討進めるに当たり、留意すべき事項はあるか。

広島市薬剤師会 報告

広島市薬剤師会 2023年1月10日 転載・掲載許可 承認

患者

薬局薬剤師

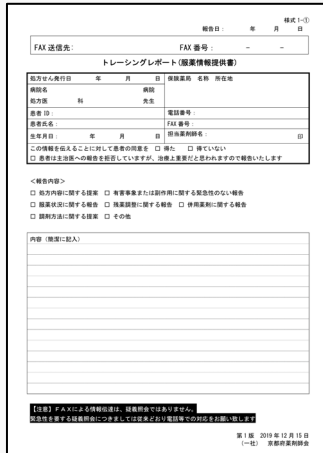
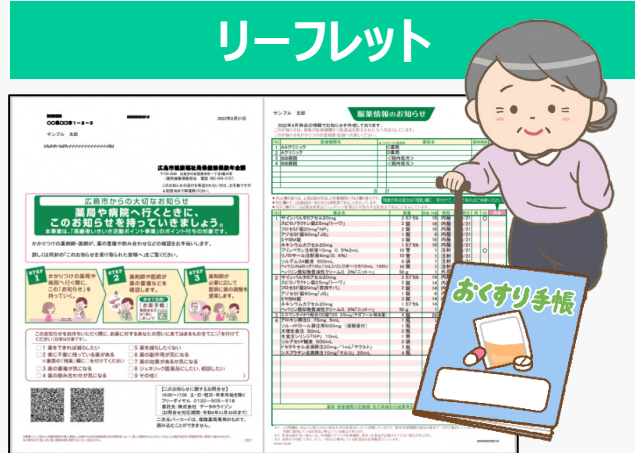
医師

服薬情報の通知書

トレーシングレポート

トレーシングレポート

リーフレット



減薬提案/重複
副作用/相互作用
身長投与薬
併用薬情報



「服薬情報のお知らせ」
「日本製薬工業協会及びくすりの適正使用協議会作成リーフレット」
を配布

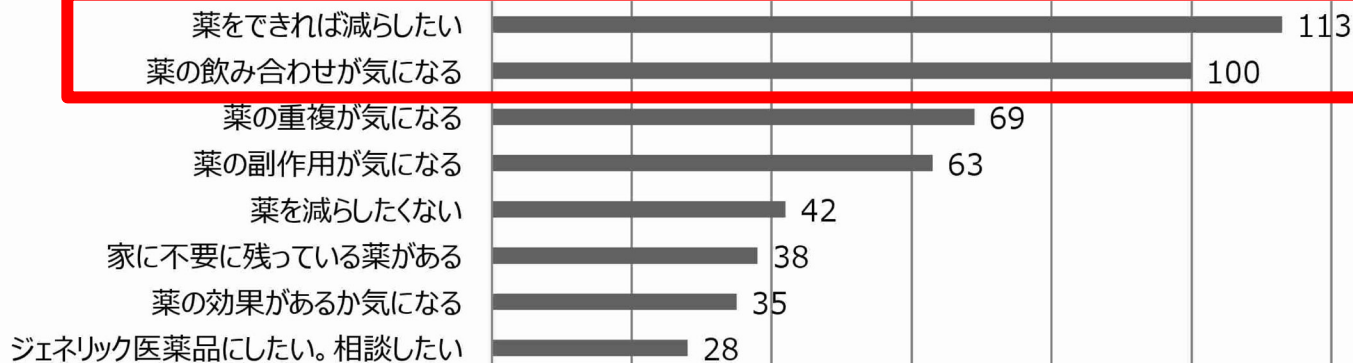
配布先

- 「広島市在住」
- 「65歳以上」
- 「国民健康保険と後期高齢者医療の被保険者」
- 「複数医受療診機関」
- 「月 14日分以上の内服薬6種類以上」

2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集

本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

「服薬情報のお知らせ」を持参された患者へのアンケート（2022年度） n=430



当委員会委員へのアンケート調査

「日本製薬工業協会及びくすりの適正使用協議会作成リーフレット」の使用感（2022年度） n=5



- 多くの患者が配布されたリーフレットにより減薬の希望がある
- 飲み合わせや重複に関しても気になる患者がいる

2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集

本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

広島市薬剤師会 報告

広島市薬剤師会 2023年1月10日 転載・掲載許可 承認

課 題	対 策
「服薬情報のお知らせ」を持参されない方で、ポリファーマシーに関連した問題を有する方への対応ができていない。	指針、業務手順書をもとに薬局薬剤師が来局された患者の中で各自が選別し、ポリファーマシー対策を実施する
レセプトデータを利用した通知では、服用開始時期と薬局に「服薬情報のお知らせ」を持参された時期に3か月～半年のタイムラグが生じる。	地域の医師・薬剤師の合同研修会の実施
患者本人の理解が得られない（服薬することでの安心感を持たれている） ※地域医療では、患者本人の意思が強く影響する。	医師会・薬剤師会合同の高齢者医薬品適正使用委員会の設置
処方元との連携が十分でない場合に、トレーシングレポートなどによる処方元への提案、情報提供を躊躇	広島市薬剤師会会員薬局を対象
カルテの参照ができない(PIMsの判断) いつから?どんな症状に対して?何を期待して?エンドポイントは?	広島県薬剤師会、広島県病院薬剤師会が作成したトレーシングレポートを使用【既存】
他の薬局で調剤された薬剤への対応ができない	「日本製薬工業協会及びびくすりの適正使用協議会 作成リーフレット」配を布【既存】 (広島市i或ポリファーマシー事業で実施中) 病院薬剤部—保険薬局間でのフォローアップ依頼書、トレーシングレポートによる連携【既存】
	会員薬局へのアンケート調査【既存】 (広島i或市ポリファーマシー事業で実施済)
	電子お薬手帳、マイナンバーカードの健康保険証利用、電子処方箋などの普及【外的要因】

2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集

本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

●「人員不足で、対象患者の抽出や、検討する時間を作れない」

- ・ポリファーマシー対策にかかる業務量が見える化し、事務職員や医療事務作業補助員などが医療職の代わりに行える業務を整理し、タスクシフティングする。
- ・電子カルテ・**電子薬歴**をカスタマイズし、ポリファーマシーが疑われる症状の記載や年齢、処方薬数、処方種類などの条件から、対象患者を自動的に抽出できるようにする。
- ・直接集まってカンファレンスを行う時間が設けられない場合、電子カルテや院内メール・**クラウドシステム**などを介して検討内容を事前共有し、カンファレンスを短時間に行えるようにする。

●「多職種連携が十分ではない」

- ・ポリファーマシー対策における役割を明確にすることにより、患者の生活の質の維持向上という共通の目的のもとに、処方見直しに有用な情報を共有する多職種連携・協働を図りやすくする。
- ・ポリファーマシー対策の担当者が、他の多職種によるチームカンファレンスに積極的に参加し連携を図る。
- ・電子カルテにカンファレンス内容を記載し、多職種で情報共有して連携を図る。
- ・院内の既存の医療チーム活動の中にポリファーマシー対策の要素を含める。
- ・**地域の医療従事者が退院前カンファレンスに積極的に参加し、退院後のフォローアップ体制や治療方針を確認する。**

2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集

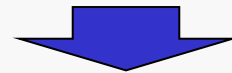
本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

●「患者の理解が得られない」

- ・地域の高齢者で対象者を抽出し、リーフレットの配布やアンケートを実施し、患者の意向や啓発活動を行う。
保険団体や行政、地域包括ケアセンター等と連携を図るとより大きな規模での実施が行いやすくなる。

医師との連携

- 地域医師会のネットワークを使い、各医療機関に情報提供を行う。（事業案内、研修案内など）
- 医療機関の医師にポリファーマシー対策に関する理解を得る



●医師への啓蒙活動

医師・薬剤師合同参加の研修会の実施

2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集

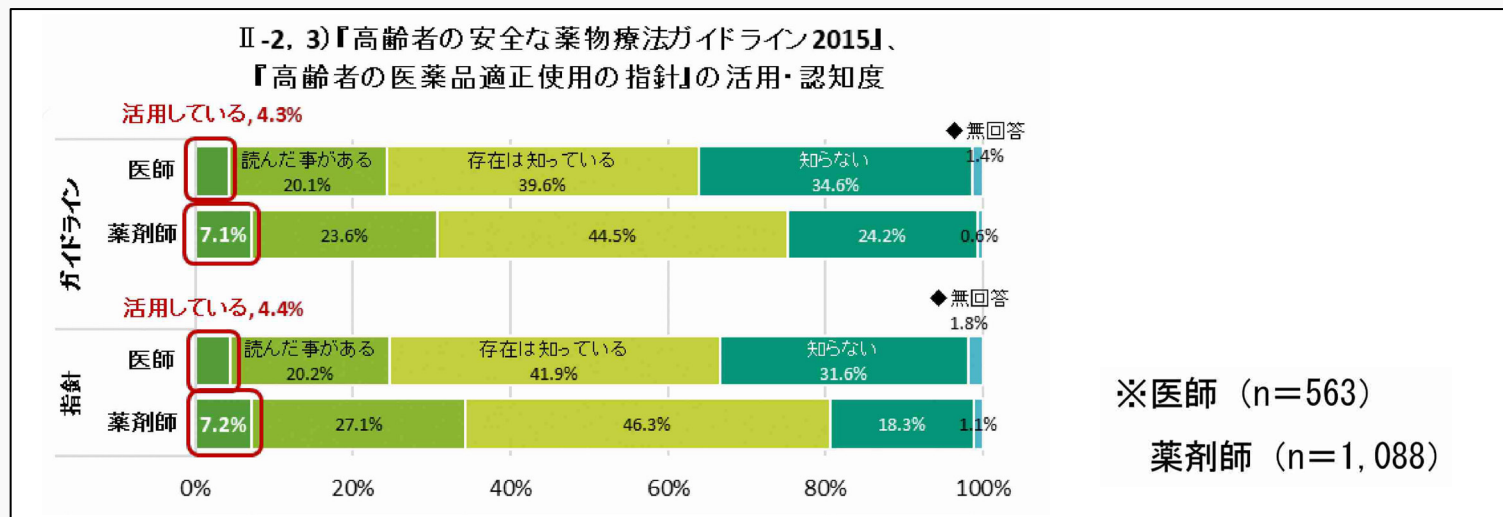
本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

Copyright©2023Nichi-IkoPharmaceuticalCo.,Ltd.

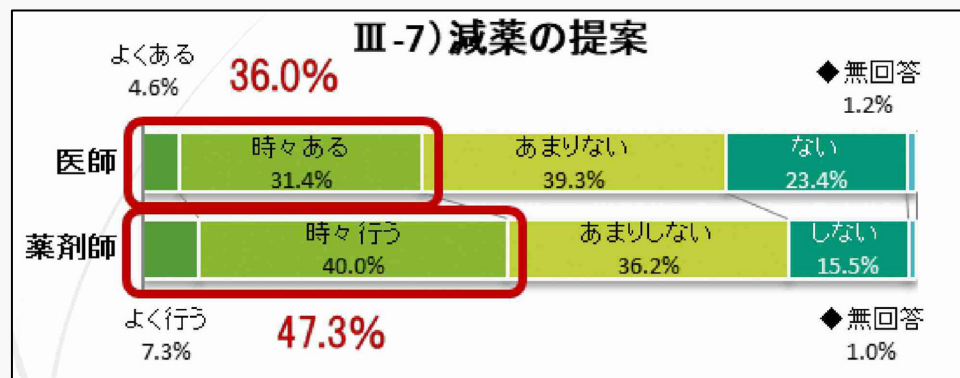
神奈川県保険医協会 報告

神奈川県保険医協会 2023年1月10日 転載・掲載許可 承認

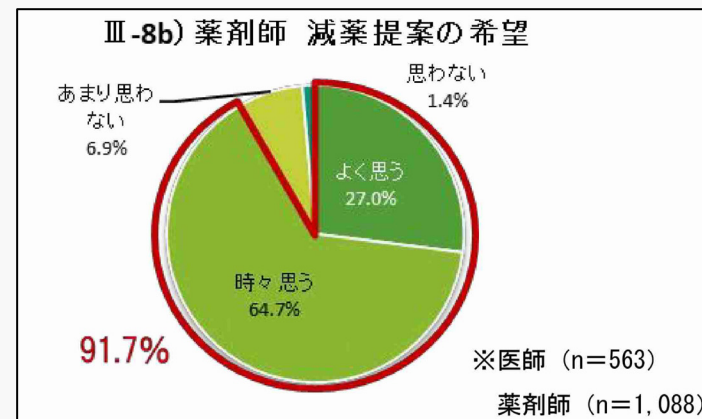
「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」や厚生労働省「高齢者の医薬品適正使用ガイドライン」を活用している医師、薬剤師は少ない



減薬の提案を受けたことのある医師は4割未満



減薬提案を行いたい薬剤師は9割を超える



2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集

本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

Copyright©2023Nichi-IkoPharmaceuticalCo.,Ltd.

課題

- 医師・薬剤師間で減薬に対する**意識に乖離**が見られる
- 既にある**ガイドラインや指針**が、現場で十分に**活用できていない**
- 薬剤の減薬・中止により、症状悪化を来すことがあり、**減薬・中止後の双方向の医薬連携（情報共有など）**が必要

対策

<ul style="list-style-type: none"> ● 人員不足で、対象患者の抽出や検討する時間を作れない ● 多職種連携が十分でない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の医師会・薬剤師会と連携をとりながら、事業に関心のある参加医師・薬剤師を募る ● 参加医療機関の処方内容について薬剤師が確認し、対象患者を抽出し、医師が対応を検討する
<ul style="list-style-type: none"> ● お薬手帳がうまく活用されていない ● 患者の理解が得られない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤師より患者へ減薬の意向を尋ね、事業参加を呼び掛ける ● 事業参加者へお薬手帳の持参を始動する ● 医師はお薬手帳を必ず月1回確認し、処方変更もしくは変更しなかった理由を記載する
<ul style="list-style-type: none"> ● ポリファーマシーであるかを判断することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤師は「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」のPIMsのリスト、医師は同リストの使用フローチャートを基に、お薬手帳を確認する ● 75歳以上でPIMsを服用する外来通院患者をスクリーニング条件に設定する
<ul style="list-style-type: none"> ● 医師が自科以外の処方薬を調整することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究会を2回開催し、事業への参加を募る ● ポリファーマシーをテーマとした講演および事業の中間報告の2部構成の研究会を通し、問題への意識向上を目指す
<ul style="list-style-type: none"> ● 病院全体を捕らえることが難しい ● 見直し後の処方内容をかかりつけ医へフィードバックする体制が構築されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業にPIMsの処方有無がチェックされ、対応が検討された、お薬手帳を通して、地域で情報共有を行う

中間報告での課題

- 他科の処方薬の処方見直しについては、今後の課題であると考え
- 他科の処方見直しの課題を解決する方法として、すでに業務手順書にも盛り込まれているが、**お薬手帳の処方内容を一元的に確認できるような体制づくりが必要**と思われる。
- 他科の処方薬を減薬・変更した際には、その理由を含め診・診での情報提供が必須であり、どのような形での情報提供が最適か、今後検討する必要がある
- 地域で業務手順書に沿った体制づくりをするには、時間的な余裕がないことが 課題のひとつと考える
- 課題の解決として、地域でできることから取り組みその成果をフィードバックすることでモチベーションを高め、さらなる対策につなげていくことが必要と考える。
遠回りであっても、継続することが重要と思う
- 地域での取り組みについては、地域ごとに様々な方法が考えられるが、第一に、医師・薬剤師を中心に、医療に係多る職種 のポリファーマシーに対する識意を 向上させ、情報を共有することが重要と考える
- その成果について研究会などを開催し、フィードバックすることも医療従事者のモチベーションを高めることに繋がると思う

宝塚市薬剤師会 報告

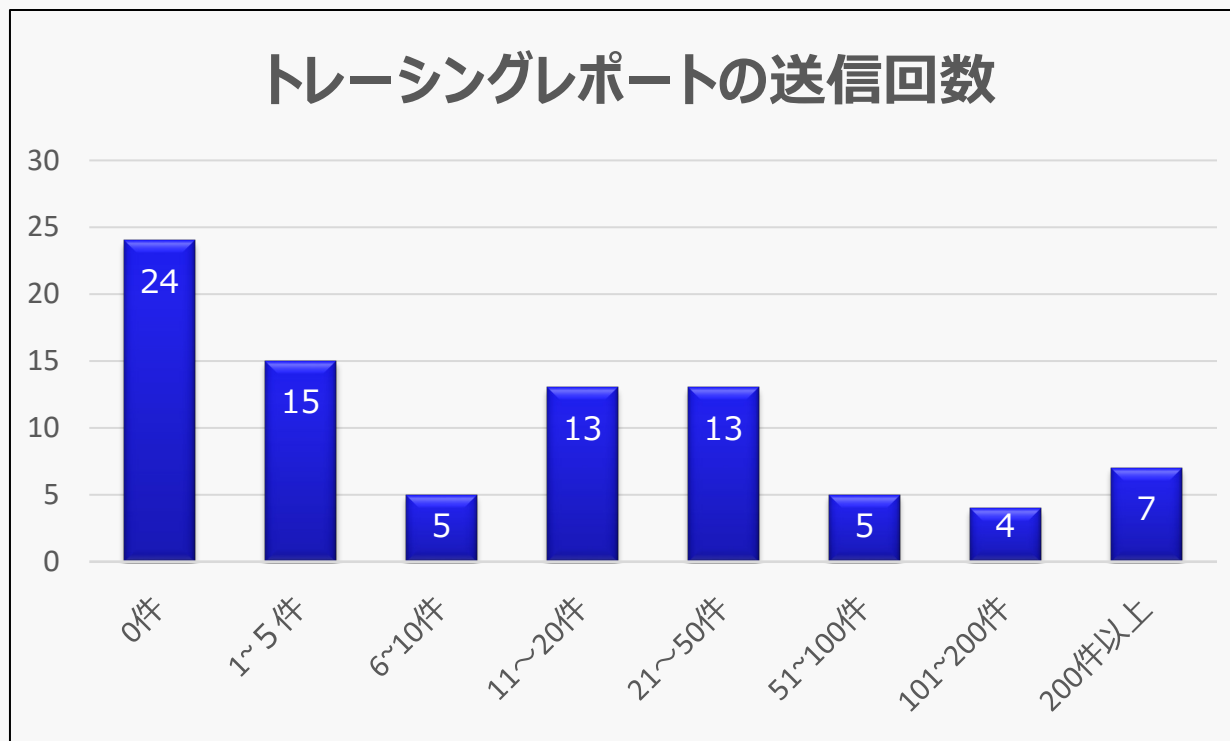
<h3>地域連携研究会</h3>	<p>宝塚市地域包括ケアシステム研究会 (3つの若葉を育てる会：市内医療従事者団体共催) 宝塚市薬剤師地域連携研究会 (宝つーかーの会：薬剤師会・医師会共催)</p>
<h3>薬剤情報の共有</h3>	<p>診療情報提供書・トレーシングレポート 退院時薬剤情報提供書・入院時薬剤情報提供書 吸入指導報告書</p>
<h3>行政事業との連携</h3>	<p>(県)服薬情報通知事業：広域連合-医師会-薬剤師会 (市域)通知事業実態調査：市立病院中心に医師会-薬剤師会と 協働で現場の取組み内容を評価 ⇒薬剤調整方法について複数回の研修会実施</p>
<h3>市民・多職種への啓発活動</h3>	<p>いきいき百歳体操講演会（市役所高齢福祉課） 地域包括・デイサービス等への出張講演 薬と健康の週間講演会</p>

2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集

本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

宝塚市薬剤師会 報告

昨年度（令和3年4月～令和4年3月）について 回答数：86軒



トレーシングレポートの送信では、多くの薬局が取組を行っている中で、1度も送信できていない薬局も散見されます。
これらを解消する取り組みをどのように行っているのかが注目されます。

2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集

本資料は、2023年1月12日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

Copyright©2023Nichi-IkoPharmaceuticalCo.,Ltd.

トレーシングレポートの現状と対策

病院と薬局の連携しやすい環境を作り
市域全体で患者（特に高齢患者）を支える仕組みを
医療機関全体として作る術を皆で考え実行していく

業務手順書における課題	実施事項
1. 人員不足で、対象患者の抽出や検討する時間を作れない	<ul style="list-style-type: none"> ●入院時情報提供書による情報共有 ●トレーシングレポートを送信しやすい環境づくり
2. 多職種連携が十分でない	<ul style="list-style-type: none"> ●入院時情報提供書による情報共有 ●お薬手帳カバーの活用（かかりつけ医・担当ケアマネがわかる）
3. お薬手帳がうまく活用されていない	<ul style="list-style-type: none"> ●お薬手帳カバーの活用
4. ポリファーマシーであるかを判断することが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ●トレーシングレポートを送信しやすい環境
5. 医師が自科以外の処方薬を調整することが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ●入院時情報提供書による情報共有
6. 病態全体をとらえことが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ●入院時情報提供書による情報共有
7. 見直し後の処方内容をかかりつけ医へフィードバックする体制が構築されていない	<ul style="list-style-type: none"> ●トレーシングレポートを送信しやすい環境
8. 患者の理解が得られない	<ul style="list-style-type: none"> ●お薬手帳カバーの活用（かかりつけ薬剤師）

宝塚市薬剤師会 報告

宝塚市薬剤師会 2023年1月12日 転載・掲載許可 承認

かかりつけ薬局の役割を病院薬剤師による患者面談によって啓発

- 入院時情報提供書の依頼を機に、複数の薬局にかかっていた患者について、病院薬剤師からの推奨も後押しし、薬局を一本化することができた。
- 入院時情報提供の依頼を受けた薬局が、かかりつけ薬局としてもらえないか患者に進めたところ、患者が病院薬剤師に相談をし、ポリファーマシーの状況であったこともあり推奨したところ、上手く対応できて、薬剤が整理できた。

急な入院延期などにも薬局薬剤師との連携で休薬の再開などにも対応

- コロナ禍の入院制限で直前に入院が延期になる患者に対して、薬局薬剤師との連携で休薬の再開など細かい対応が可能となった。
- 院内で入院前に病院薬剤師が面談する仕組みを作ったことで、薬局薬剤師に連携するまでもない事でも未然に服薬過誤を防止できた事例や従来対応していなかった事例にも外来患者の問題を病院薬剤師が解決できる事例が増えた。

2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集

有効性	課題
<p>■ ポリファーマシー対策の進め方 ポリファーマシー対策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対象患者をスクリーニングする ● 入院前の医療機関等への情報提供を求める <p>⇒を参考に手順書等を作成・実施できた</p> <p>■ 様式事例集 様式を参考に患者が入院する際に、病院からかかりつけ薬局に伝え、かかりつけ薬局が患者のかかっている他の薬局の情報等を集約して、入院時の持参薬等を入院先の病院に提供するという取り組みを実施できた。</p>	<p>■ ポリファーマシー対策の進め方 ポリファーマシー対策の体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域包括ケアシステムを担う医療・介護関係者等との連携体制を作る <p>⇒市内病院に同様の体制づくりを呼び掛けるも各病院の事情により実施に至っていない 病院が多い</p> <p>(コロナにより定期的に行われていた会議が開催できなくなっていたが、今後WEBを用いた会議などを開いて、しない病院との連携を強化していく)</p>

2022年11月30日 厚生労働省高齢者医薬品適正使用医検討会より資料抜粋・編集



日医工がお届けする **Stu-GE** は、
スタジー
医療従事者の方のための医療行政情報サイトです。

ご覧頂ける
 テーマ別
 情報一覧

- 診療報酬改定関連の速報情報
- 診療報酬点数の施設基準や算定要件の情報
- 調剤報酬全点数情報
- 地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の施設基準
- DPC/PDPS関連 新規薬価収載に係る包括評価対象外薬剤一覧
 DPC公開データを用いた各種医療圏分析
- その他医療制度に関する情報

会員登録は、**無料**

いますぐ、会員登録サイトで登録を!!

会員特典1 メールマガジンの受信

会員特典2 会員限定コンテンツの閲覧

スマートフォンで簡単登録

パソコン画面で入力



<https://stu-ge.nichiiko.co.jp/registrations/index>